

第2学年D組 英語科学習指導案

授業者 蓬 澤 守

1 単 元 PROGRAM 2 *Leave Only Footprints*

(Sunshine English Course 2)

2 単元について

(1) 題材について

本課は、カナダに留学中の中学生であるミキがクラスメイトであるトムとハイキングについて話をする場面から始まる。その後、トムとトムの叔父と共にハイキングに行き、大自然の中におけるハイキングのルールや動物の生態系について対話を行う場面へと発展する。

我々、人間は一人では生きていくことはできない。大自然の中ではなおさら、人間は様々な配慮をしながら生きていく必要がある。配慮という側面では、他者との対話でも同様であり、重要な要素となる。進級し、新しい人間関係が生まれてきている今だからこそ、どのような情報を伝達していくことが望ましいか、またどのような質問・応答がよりよい人間関係の構築やコミュニケーションへとつながるかを思考させ、生徒とのインタラクションの場を設けながら指導していきたい。

(2) 言語材料について

本課では、主語+think+that で始まる節を伴う表現および助動詞 must および義務の意味を持つ表現 have to の用法について学習する。本課においては、自分の意見をより主体的に表現できるようになるとともに2学年で学ぶ助動詞に関する表現としては2つ目となり、目的や場面、状況に応じた自分の意思や考えを効果的に説明することができるようになる。一方で、それらを文の中で使用する際には日本語とは異なる語順で使用することや目的や場面、状況に応じた用法の選択が求められる。加えて、自分の考えをただ相手に伝えるのではなく、相手の立場に応じて既習の事項を選択することも求められる。他者とお互いの考えや情報を伝え合うという言葉のもつ本質的な役割の重要性を考えさせるとともに、仲間と共に協力しながら積極的に言語活動に取り組むことができるように指導していきたい。

(3) 学校研究とのかかわりについて

英語科では、「主体的・対話的で深い学び」を進める中で、他者との協働を大切にしながら生徒一人一人の挑戦心を育てることで資質・能力の育成を図ることができるよう、以下の二つの手立てによって授業実践を進めている。

【重点1】について、生徒自らが挑戦したいと思えるような単元計画を行っている。各課の目標という小目標だけでなく、各学期の大目標を教師と生徒が理解し、学習を行えるよう指導や支援を行ってきた。各単元の冒頭で、小目標に迫る活動に取り組みせ、生徒が自身の現状を確認できるとともに学習の見通しを持つことができるようにした。その結果から、単元で学ぶべき事項や自身の考えを効果的に伝えるための方法を学習過程で生徒が捉えながら学びを深めることができた。再度、単元末に同じ活動に取り組んだ際にも生徒自身が自分の成長が自覚できることにも繋がっている。

【重点2】について、生徒が自ら課題を捉えた上で自分の考えを整理するためにも思考ツールの活用を行ってきた。他者との英語によるやり取りを行った際にも、他者の意見を思考ツール上に加筆することで自分の考えを再度整理することや新たな考えを生み出す糸口になることもあった。また、自分の考えを英語で伝えるにあたり、相手に応じて既知の言語材料を使い分けることやコミュニケーションを図ろうとしている姿が多く見られ、生徒の「挑戦心」が表れることに繋がった。

本課ではまとめの活動として、テーマに沿って自分の考えや意見を表現し、それを他者へと英語を用いた言葉によるコミュニケーションを図る場面を設定する。聞き手が理解しやすいような内容、伝え方だけではなく、論理的に話を継続するための視点についても目を向けさせ、考えさせたい。

3 生徒の実態

男子 19 名，女子 18 名で，男女の分け隔てなく様々な場面で互いに協力し，取り組むことのできる活気あふれる学級である。特に「聞くこと」や「話すこと」における活動の場面では，既習の事項を用いて自分の意見を相手に伝えるように工夫して伝達しようとしたり，相手からの意見を主体的に受容しようとしたりする姿が見られる。加えて，小学校での外国語および外国語活動や昨年度の経験を基に，未習の内容であっても使ったことのある英語表現をもとに，自分の欲しい情報を聞き出そうとする場面も見られるようになってきた。一方，こうした活動に自信をもち，取り組むことのできない生徒も少なからずいる現状がある。基礎的・基本的な文のつくり方や用法を確認することや，十分な練習を行った後に活用を図ることや，適宜教師からのフィードバックを加えることなど，生徒をよく観察しながら段階を踏んだ授業展開を行い授業の改善を図る。また活動形態をペアやグループなど，生徒同士で学び，支援できる環境を整え，全員がその授業 1 時間で「英語で自分の気持ちを表現し，相手に伝えることができるようになった」と実感できる支援を行いたい。

4 単元の目標

自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の特徴やきまりに関する事項を活用し，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で伝えることができる。

- ・「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の特徴やきまりに関する事項を理解し，使用する技能を身に付けている。 〈知識及び技能〉
- ・自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で伝えている。 〈思考力，判断力，表現力等〉
- ・自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で伝えようとしている。 〈学びに向かう力，人間性等〉

5 単元の評価規準

(本単元における「話すこと [やり取り]」については，目標に向けての指導は行いが，本単元内で記録に残す評価は行わない)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと (聞)	<知識> ①「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の特徴やきまりを理解している。 <技能> ②「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の理解をもとに自身の好きなことや考えていることについて聞きとる技能を身に付けている。		
読むこと (読)	<知識> ①「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の意味や働きを理解している。 <技能> ②「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」や「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の理解をもとに睡眠の大切さについて書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。		
話すこと [発表] (発)		自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で話している。	自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で話そうとしている。
書くこと (書)		自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書いている。	自分の考える附属中学校における理想の先輩像について，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書こうとしている。

6 単元の指導と評価の計画（7時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価		
		知・技	思・判・表	態
		◎評価規準<評価方法>		
1	<p>◆本単元で理解する内容や身に付ける技能を知る。</p> <p>◆「一般動詞（肯定文）」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、他者に自身の好きなことや普段行うことについて伝える活動を通して、事実を整理し、「一般動詞の用法（肯定文）」の用法を活用しながら英語で話をする。</p> <p>○ミキとトムとのハイキングに関する対話を基に、単元の内容についての理解を深める。</p> <p>○ICT端末を活用しながら、自分の考える附属中学校における理想の先輩像について、既習の事項をもとに、クラスメイトに英語で伝えてみる。</p> <p>○「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。</p>			
2	<p>◆教科書本文（Think 1）を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p> <p>○「主語＋think＋that で始まる節を伴う表現」の用法が用いられた教科書本文の内容を理解する。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通し、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p>			
3	<p>◆「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、普段自分が行っていることや相手が行っている活動についての英語での情報交換を通して、事実を整理し、「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の用法を活用しながら英語で話をする。</p> <p>○「助動詞 must」および「義務の意味を持つ表現 have to」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。</p> <p>○場面絵等の様子を描写する活動を通して、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p>			
4	<p>◆教科書本文（Think 2）を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p> <p>○「助動詞 must」が用いられた教科書本文の内容を理解する。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通し、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p>			
5	<p>◆教科書本文（Think 3）を聞いたり読んだりして内容を理解し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p> <p>○「義務の意味を持つ表現 have to」が用いられた教科書本文の内容を理解する。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通し、他者に自分の考えを効果的に伝える方法を確認するために、本課で学習した用法などを活用して、事実を話す。</p> <p>○教科書本文の内容（Think 1～Think 3）やそれに関連した内容について、自分の考えをもち、他者と意見交換する。</p>			
6 本時	<p>◆自分の考える附属中学校における理想の先輩像について、自分の考えを、簡単な語句や英文を用いてクラスメイトやALTに英語で伝える。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、自分の考える附属中学校における理想の先輩像について、考え、クラスメイトやALTに伝える。</p> <p>○他者との英語での意見交換を基に、自分の意見を、英文を用いて書き表す。</p>		(話) (話)	◎自分の考える附属中学校における理想の先輩像について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をクラスメイトやALTに英語で話している。<活動観察及びワークシート分析>
7	<p>◆自分の考える附属中学校における先輩像や理想像について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で表す。</p> <p>○他者との英語での意見交換や教科書本文の内容を活用し、自身の好きなことや考えていることについて、自分の考えを形成、整理、再構築し、英文で書き表す。</p>		書 書	◎自分の考える附属中学校における理想の先輩像について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を英語で書いている。<ワークシート分析>
後日	<p>・パフォーマンステスト（ALTへの英語による発表）</p> <p>・ペーパーテスト</p>	○	○	○

